

特別養護老人ホーム 皆生みどり苑

1 基本方針

「尊厳の保持」と「自立支援」をケアの基本とし、利用者が健康で安らぎのある主体的生活を送れるよう支援を行うとともに、地域住民との連携強化や情報公開等による透明性の確保に努め、地域に信頼される施設を目指す。

2 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	平成29年度中の入退所状況						利用 延人員	年間平均稼働率	年度末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				施設移管	契約解除 (入院等)	死亡	計			
100人	97人	26人	24人	1人	2人	21人	24人	36,124人	98.97%	99人
28年度 100人	99人	22人	24人	1人	0人	23人	24人	35,974人	98.56%	97人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	1人	1人	3人	5人	3人	13人
女性	1人	3人	9人	27人	46人	86人
計	2人	4人	12人	32人	49人	99人

（平均介護度4.23）

3 事業の実施状況

（1）多床室でのユニットケアの展開

ア 24時間シートとアセスメントを活用して、利用者一人ひとりのニーズを把握し、個々のリズムに合わせた生活の援助を行うとともに、生活する上でのリスクも24時間シートに盛り込み、事故防止に努めた。

イ ユニット内で炊飯して提供する食事形態へ変更し、目の前で盛り付けることで準備の雰囲気等を感じていただき、より家庭的に食事を提供することでサービスの向上を図った。

ウ ユニットケア研修を新任者（4年未満）と中堅以上（4年以上）に分けて実施することで参加しやすい体制を取るとともに、それぞれの理解度に合せて理念や手法を伝達し効果的な研修実施に努めた。

（2）地域との連携強化

ア 地域住民向けに3回公開講座を実施した。それぞれ感染症、認知症、口腔ケアをテーマに行ったが、地域の方の参加者が増えるよう、今後は地域の「いきいきサロン」との共催も検討していく。

イ 地域交流ホールを活用した作品展示イベント（1回）及び地域活動（5回）を行った。また、地元自治会の会議の会場も提供し、地域とのつながりを深めている。

ウ 福祉何でも相談日を継続実施し、機関紙等で公表している。相談へは介護支援専門員等の

専門職で対応している。

(3) 地域密着型施設の円滑運営

ア おおむね2ヶ月に1回運営推進会議を開催して利用者状況報告や意見交換を行い、地域住民及び関係機関と連携を図ることにより、円滑な運営に努めた。

(4) 経営改善・基盤の確立

ア 事前面接による欠員の迅速な補充及び看護・介護体制の充実による入院日数の減少により過去最高の稼働率98.97%を達成した。(目標稼働率98%)

短期入所は、利用希望者が目標(60%)に達せず40.5%と低い稼働率が続いているが、居宅介護支援事業所の介護支援専門員と連携を取り稼働率確保に努める。

イ 皆生やまと園と業務委託契約や物品の購入を一体化し効率化を図った。今後も運営等について定期的に連絡会を開催し、効率的な運営に努める。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
YMC A米子医療福祉専門学校	5～6月	2人	34人
米子松陰高等学校	6月	2人	6人
米子北高等学校看護科	9月	4人	20人
米子医療センター附属看護学校	10月	8人	48人
琴の浦特別支援学校	7月	1人	5人
県新規採用職員体験研修	12～1月	4人	12人
計		21人	125人

(2) ボランティアの受入実績

福生東公民館、永江地区在宅福祉員、ポプラの会、さざんかの会、木綿の会、さくら会、溝口傘踊り同好会、和楽衣箱、長谷川芸能社、書道教室(個人)、二胡演奏(個人)、ハーモニカ演奏(個人)、マジックショー(個人)等 (延べ113人)

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設6名及び空床型

年度	実人員	延人員
29年度	35人	887人
28年度	42人	935人

(2) 高齢者世話付住宅援助員派遣事業 定員 22世帯

相談等状況	訪問	電話	その他	合計
安否・健康状態の確認	1,872件	36件	5,180件	7,088件
生活支援・相談	240件	10件	0件	250件
緊急時の対応	0件	25件	0件	25件
合計	2,112件	71件	5,180件	7,363件